

<連載 7> ささえあいの地域は、すべての人が共に生きる地域



理事長 高見 優

●ここ数カ月私の周りは、障がい問題に関する講演と相談、話題が相次いでいます。

2019 総代会で記念講演いただいた「認知症の人と家族の会」、今度は私が世界アルツハイマーデー記念講演会「地域で支え合って、自分らしく暮らしたい」で話させていただいた。(9/15)

「2019 にいがたワーク&ライフフォーラム」(9/28) の記念講演「共に働き、共に生きる」はタレントの菊池桃子さん。生後すぐ脳梗塞で障がいを持つ長女の話～「降雪の朝、義足をつけ通学する娘が怪我しないよう車に乗せたところ、お母さんは私より長生きするつもりかと問われた。」「娘は、歩行困難な天候でも自力通学に挑戦できるのにと訴え、良かれと思ってしたことが決して子どものためにならない、ということを学んだ」と話す。ケアする立場の私たちも教訓としたいと思います。

○10月1日は昨年制定された「生涯現役の日」です。私も日本高齢協連合会会長理事として「生涯現役の日制定・普及委員会」の委員であり同日開催された「交流フォーラム」に参加しました。記念講演は岡山県総社市の片岡聡一市長の「総社市障がい者千人雇用」。これがすごい！！

市長は代議士秘書をしていたとき、中央から地方を見て自治体独自の政策が少ないのが疑問だった。市長になり、すべての住民が「教育を受け、働き、暮らし、老いて死んでいく」政策を考え、4%の障がい者が自立して働けるよう市独自財源(2.5億円)で「総社市障がい者千人雇用」を打ち出す。役所内、議会の反対に対して、困難をかかえ働きたくても働けない4%のために96%が同じ住民として支え合おう、と説得し賛同を得る。障がい者の戸別訪問で「放っという」という家族が今では就労を喜び、障がい者就労を受け入れた町工場も元気に、生活保護受給者が納税者になった。6年間で1000人(一般500人、社協500人)の雇用に成功したという。千人規模の大企業誘致より、地域が大きく変化した。10万人以下の市町村に住む人が国の人口の過半数だ、その住民の暮らしが豊かになることが重要だ、と繰り返し強調された！(詳細は、総社市のホームページや片岡市長のブログなど参照)

●地域の方からの相談事。

交通事故で重度意識障害の子を24時間365日自宅で介護する家族(親)の相談。

「自分たち親の老い先が心配。元気なうちにしっかりケアしてくれる施設が欲しい、なければ自分たちで作りたい、手伝ってほしい」～3家族から切実な声を聞き、調査・検討をはじめました。共生型事業所は？ 障がい者グループホームは？ 医療・介護ワーカーの高度のスキル、そして何より情熱と覚悟、経営・運営の力、組織・システム形成能力が必要。協力者募集中！

○「バリバラ」見えますか？ ぜひ見てください！ (NHK ホームページ参照)

NHK 総合 TV 毎週木曜日 20:00~30 (再放送 日曜日 0:00~30=土曜日深夜)

2012年にスタートした番組「障がい者のため情報バラエティー」(バリバラ)は、2016年からは障がいのある人に限らず「生きづらさを抱えるすべてのマイノリティー」の人たちの番組です。

ということは、今やこの社会に生きる「すべての人」の番組だと思えます。

私やあなた、そう、全員にとっての“バリア”をなくすために、みんなで考えていきましょう。

「みんなちがって、みんないい」

(ご感想・ご意見をお寄せください：編集部)